



藤のころ

宮坂静生

軽井沢

芽吹くもの炎のかたち鳥の家
逃げ足の早き泥鰌や子どもの日
蒲団籠上りて沼の鶴をみる
泉下てふ泉湛へて螺旋階
筍の地下莖ハイデルベルクまで
噴井まで御おたまや霊屋造り木曾奈良井

木曾へ

御櫛處とは青木賊涼しげな
杣人の大きめんぱも藤のころ
空穂とて矢入れに注連を春祭
眉に山かぶさる端午五平餅
霧青し首なきマリア地蔵尊
翁草植うる種まき爺が出て
太吉以後の冤罪いつかりんご咲き
了るまで新茶袋を捨てず置き
しのび手の響き五月の闌けにけり

宮下太吉大道事件ありし明科

了るまで新茶袋を捨てず置き